

あわじ うた かいせつ
淡路だんじり唄 解説

あわじ うた にんぎょうじょうりり もと だんたいげい つく
淡路だんじり唄は、人形浄瑠璃を基に団体芸として作られたもので、
べつめい じょうりり よ にんぎょうじょうりり ものがたり めいばめん ぼっすい
別名「浄瑠璃くずし」とも呼ばれる。人形浄瑠璃の物語の名場面を抜粋
つく あわじ どくとく みんなぞくげいのう
して創られた淡路独特の民俗芸能である。

どくとく ふしまわ うた うた たいこ ひょうしぎ つか ぜんいん うた
独特の節回しで唄われるだんじり唄は、太鼓と拍子木を使い全員で唄う
つ ぶし しゅじく じょうりりちよう かた こ みんなようちよう ふ
「連れ節」を主軸とし、浄瑠璃調の「語り込み」と民謡調の「振り」と
どくしょう うた あいま どうじょうじんぶつ まじ
いう独唱がある。唄の合間に登場人物のセリフ「ことば」を交えて
じょうかんゆた ひょうげん
情感豊かに表現される。

うた ちいき まつ はっぴすがた せいねんだん さいれいだん わかもの うた
だんじり唄は、地域の祭りで法被姿の青年団や祭礼団の若者によって唄
つ ほうのう きんねん かずおお あいこう あわじ
い継がれ、奉納されてきたが、近年では数多くの愛好グループもでき、淡路
ほこ きょうどげいのう した
の誇る郷土芸能として親しまれている。